



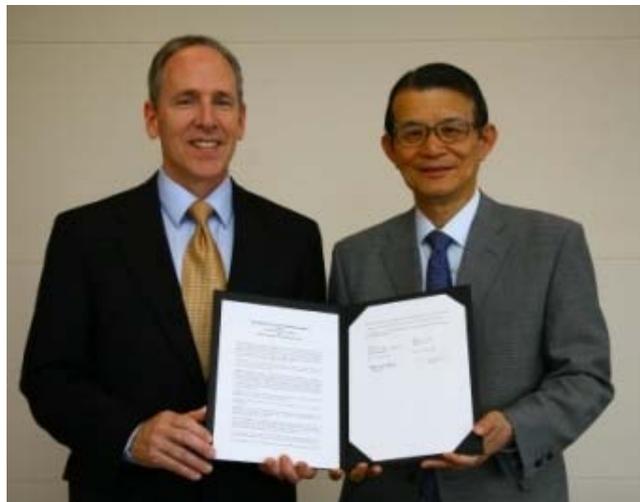
## GE と独立行政法人物質・材料研究機構（NIMS）

### 将来的な技術連携に向けた MOU を調印

- 日本の独立行政法人とのパートナーシップにより、日本における技術協業を強化 -

2009年5月27日【東京】--GE（本社：米国コネチカット州フェアフィールド）と独立行政法人物質・材料研究機構（本部：茨城県つくば市）は、本日、将来の技術協業に向けた MOU（覚書）を調印しました。今回の調印は、GE にとって、日本の独立行政法人との技術コラボレーションに向けた初めての MOU 締結となりました。

この MOU に伴い、GE の研究開発を担う GE グローバル・リサーチ（本部：ニューヨーク州ニスカユナ）と NIMS 間において、今後 5 年の間に、将来の技術協業に向けた意見交換や人的交流、技術セミナーの共同開催などを積極的に行い、相互補完的なパートナーシップの構築に注力いたします。GE と NIMS は、よりクリーンで、より持続可能なエネルギー・ポートフォリオ、および環境関連技術の促進に貢献する材料科学エンジニアリング分野における、将来的なプロジェクトを見つけ出すことを期待しています。



GE 赤坂オフィスにて、MOU に調印する GE グローバル・リサーチのマーク・リトル所長と NIMS の岸 輝雄 理事長

今回の提携に至った背景として、GE は日本企業・団体との技術連携を重要戦略のひとつに位置づけしており、2004 年より、相互補完的なパートナーシップの構築を促進する取り組みとして、「ジャパン・テクノロジー・イニシアチブ(JTI)」を展開しています。具体的には、JIT を通じて、大企業から中小企業まで規模を問わず、パートナーシップ構築を通じて、革新的な製品・サービスを世界に届けています。

今回の MOU 締結について、GE グローバル・リサーチのマーク・リトル所長は次のように述べています。

「GE は、新素材のブレイクスルーには、新しい商品の開発や、困難な問題を解決する極めて大きな可能性を秘めていると信じています。また日本は、材料科学やエンジニアリングにおいて世界をリードしています、その点からもこれからの NIMS との連携によって、GE の研究開発力と NIMS の新しい材料科学を持ちよることで、よりクリーンで持続可能な未来に向けた新しいソリューションを探求できるのではないかと期待しています。」

NIMS の岸輝雄 理事長は次のように述べています。

「GE は、“ecomagination (エコマジネーション\*)”において、より良い社会を実現するために、「企業としての成長」を遂げながら、同時に重要な「環境課題への貢献」に、積極的に革新的ソリューションを提供しています。NIMS では、従来にない材料科学を駆使することで、GE と協力し、環境問題解決の力になれると考えております。今回の MOU 締結は NIMS にとって非常に大きな第一歩であります。NIMS は、①特殊な機能的ニーズのある物質・材料の開発、②それらの機能のメカニズムのナノレベルでの解析、③理論に基づいた材料機能の予測、3 つを軸に最大限に力を発揮させていきたいと考えています。」

今回の MOU 締結により今後期待される GE と NIMS の新しい技術協業は、エコマジネーションをさらに推し進めるでしょう。よりクリーンで持続可能な技術と商品の開発を実現するには、材料科学や技術のブレイクスルーが成功の鍵となります。なぜなら、良い素材・材料は、優れた商品を生み出すことができるからです。

\* エコマジネーションの詳細は、(<http://www.ge.com/jp/company/ecomagination/index.html>)  
をご参照ください。

## GE について

GE は、“imagination at work 想像をカタチにするチカラ”をスローガンに、テクノロジー、メディア、金融サービスという多様な分野で事業展開し、世の中の困難な問題の解決に向けて努力しています。航空機エンジン、発電、水処理・セキュリティ技術から医療用画像診断装置、企業向け・個人向け金融、メディアにわたるまで幅広い商品とサービスを、世界 100 カ国以上のお客さまに提供しており、約 30 万人の従業員を擁しています。詳細は、GE のホームページをご覧ください。GE は、日本においても 100 年以上にわたって事業展開しており、社員は約 5,000 人を数えます。日本における GE の事業・活動等については、<http://www.ge.com/jp/> をご覧ください。

## 独立行政法人物質・材料研究機構 (NIMS) について：

物質・材料研究機構 (NIMS) は、材料科学に関する研究開発を行う日本で唯一の独立行政法人で、次世代に求められる物質・材料研究を俯瞰し「明日を創る材料研究」をテーマに運営されています。2001 年 4 月に金属材料技術研究所 (NRIM) と無機材質研究所 (NIRIM) が統合され、発足した NIMS は、材料科学分野での基礎研究や開発を総合的に管理推進し、この分野における専門分野のレベルアップを目指しています。このため、NIMS は日本及び世界各国における各研究機関との連携を深めてきました。NIMS には、茨城県のつくば市を中心に、国内外に複数の事業所があります。また、事業所の一部では特定の研究開発を重点的に行う拠点も有し、国際的な活動を展開しています。従業員数は 1,387 名 (2009 年 3 月 1 日現在。定年制職員以外も含む) です。NIMS の事業・活動等については、<http://www.nims.go.jp/index.html> をご覧ください。

**【問い合わせ先】**

**日本 GE コーポレート・コミュニケーション本部**

Tel : 03-3588-9500

[または、日本 GE 広報事務局（株式会社エル・ビー・エス内）岡田／唐木 Tel: 03-3769-1351]

**独立行政法人物質・材料研究機構 企画部広報室**

TEL:029-859-2026

[なお、連携内容に関するお問い合わせについては、同 企画部連携推進室（TEL：029-859-2600 FAX：029-859-2500）にて対応させていただきます]

## 【別添資料】

### <「GE グローバル・リサーチ」について>

GE グローバル・リサーチは、米国で最初の工業研究所であり、世界有数の多様性に富んだ研究開発センターの1つで、GEの全ての事業部門と協力し、世界に革新的なテクノロジーを供給しています。

GE グローバル・リサーチは100年以上にわたり、GEのテクノロジーの中核として、医療画像、発電、航空機エンジン、先進材料や照明などを含む様々な分野における革新的な技術を開発してきました。

全世界のGE技術関係者27,000人の約1割にあたる約2,700人の研究者が研究開発活動に携わっており、GEの技術投資は57億ドルに及びます。GE グローバル・リサーチはニューヨーク州ニスカユナに本部を置き、インドのバンガロール、中国の上海、ドイツのミュンヘンにも研究開発拠点を設立しています。

GE グローバル・リサーチの詳細については、[www.research.ge.com](http://www.research.ge.com)（英語）をご覧ください。

### <「ジャパン・テクノロジー・イニシアチブ (JTI)」について>

GEは日本企業との技術連携を重要戦略の一つとして位置付けており、相互補完的なパートナーシップ構築を促進するプロジェクト「ジャパン・テクノロジー・イニシアチブ」を2004年より展開しています。具体的には、大企業から中小企業まで規模を問わず、相互にとってメリットのある技術協業を模索し、革新的な製品・サービスを世界に届けるための活動を行っています。

近年では、以下の日本企業と共同研究に関する提携を発表しています。

- ・ 2007年3月：コニカミノルタホールディングス株式会社と照明用有機ELの開発と商業化を加速させる戦略的提携契約を締結。今後3年以内に有機EL照明製品を市場に投入
- ・ 2007年1月：トッキ株式会社と有機ELディスプレイなどの製造向け「PE-CVD膜封止技術及び装置」の共同開発・商業活動に関する業務提携
- ・ 2006年12月：住友電気工業株式会社と高温超電導材料を用いた工業製品の開発に向け、共同研究を進めることで合意。住友電工は高温超電導線の開発を担当し、GE グローバル・リサーチは、高温超電導材料を用いた新しい応用製品の設計と製品の試作を担当

2007年10月には、国内の中小企業との技術協業を模索するため同社初の試みとして「ジャパン・テクノロジー・フォーラム」を開催しました。参加した日本企業33社（応募総数：約160社）との交流の機会をとおして、現在5社と技術協業の話し合いを進めています。

また、2008年9月からは、GEとしては世界初となる試みとして、同社のWebサイトを活用した日本企業からの技術協業の公募も行っています。

詳細は、日本GEホームページ内のイノベーションの取り組み：

(<http://www.ge.com/jp/company/technology/index.html>) をご覧ください。